

平成25年度私立幼稚園・私立小学校等の給食・牛乳の放射能測定結果

提供期間	品目	採取施設名	日数	摂取量(kg)	検査結果(Bq/kg) ※検出限界値:0.7Bq/kg			給食及び牛乳1週間分の放射性セシウムによる内部被ばくの実効線量(μSv)		
					ヨウ素131	セシウム134	セシウム137			
6月10日(月曜)から6月14日(金曜)	給食	東洋英和女学院小学部	5	1.877	<0.7	<0.7	<0.7	0	~	0.03153 μSv未満
	牛乳		5	1.000	<0.7	<0.7	<0.7	0	~	0.0168 μSv未満
6月17日(月曜)から6月21日(金曜)	給食	聖徳学園三田幼稚園	5	2.955	<0.7	<0.7	<0.7	0	~	0.04675 μSv未満
	牛乳		2	0.200	<0.7	<0.7	<0.7	0	~	0.00316 μSv未満
9月30日(月曜)から10月4日(木曜)	給食	東洋英和女学院小学部	3	0.942	<0.7	<0.7	<0.7	0	~	0.03153 μSv未満
	牛乳		3	0.600	<0.7	<0.7	<0.7	0	~	0.0168 μSv未満
11月12日(火曜)11月14日(木曜)	給食	聖徳学園三田幼稚園	2	0.800	<0.7	<0.7	<0.7	0	~	0.01266 μSv未満
	牛乳		1	0.180	<0.7	<0.7	<0.7	0	~	0.00285 μSv未満
1月14日(火曜)から1月17日(金曜)	給食	東洋英和女学院小学部	4	1.920	<0.7	<0.7	<0.7	0	~	0.03226 μSv未満
	牛乳		4	0.800	<0.7	<0.7	<0.7	0	~	0.01344 μSv未満
2月17日(月曜)から2月21日(金曜)	給食	聖徳学園三田幼稚園	5	3.011	<0.7	<0.7	<0.7	0	~	0.04763 μSv未満
	牛乳		2	0.180	<0.7	<0.7	<0.7	0	~	0.00285 μSv未満

*各園・校で提供している給食のメニュー、食材・牛乳の産地及び原産地等については、各幼稚園・小学校にお問合せください。

*測定結果が検出限界値(0.7Bq/kg)未満の場合、内部被ばくの実効線量はセシウム134、137が、それぞれ0から検出限界値(0.7Bq/kg)まで含まれていたと仮定して計算しています。

*厚生労働省の新基準では、食品から許容することのできる放射性セシウムの線量を年間1mSv(ミリシーベルト)としています。この値は、食品の国際規格を作成しているコーデックス委員会の指標「年間1mSv」を超えないように設定されています。[1mSv = 1,000 μSv]

*摂取量とは、当該の1週間で摂取した総量で算出しています。(小学校は中学年を基準としています。)

*内部被ばくの実効線量とは、給食・牛乳に含まれる放射性物質(セシウム134及びセシウム137)により、人体が受ける放射線の影響を示すものでシーベルト(Sv)で表します。(ヨウ素131は半減期が短く、新基準値の対象外のため、実効線量の算出は行いません。)

*測定結果が検出限界値(0.7Bq/kg)未満の場合、内部被ばくの実効線量はセシウム134、137が、それぞれ0から検出限界値(0.7Bq/kg)まで含まれていたと仮定して算出しています。

【給食及び牛乳にかかる1週間分の実効線量の算出方法】

※実効線量の換算係数は「緊急時における食品の放射能測定マニュアル(厚生労働省、平成14年3月)」を参照しています。

〔換算係数〕	対象	セシウム134 (μSv/Bq)	セシウム137 (μSv/Bq)	備考
	幼児	0.013	0.0097	幼稚園児、保育園児の内部被ばくの実効線量算定に使用する換算係数。
	少年	0.014	0.010	小学生の内部被ばくの実効線量算定に使用する換算係数。
	青年	0.019	0.013	中学生の内部被ばくの実効線量算定に使用する換算係数。

●セシウム134:(検出値×摂取量×換算係数) + セシウム137:(検出値×摂取量×換算係数) = 実効線量